

追 悼 の 辞

大切な、かけがえのない我が子、我が兄弟姉妹を奪われた方々にとりましては、4年たっても尚、深い悲しみのなかにおられることでしょう。

今年の追悼式で直接お会いしてご挨拶させていただくことは叶いませんでした。追悼の言葉をこのような形で述べさせていただくことになり、申し訳なく残念でなりません。

ご遺族の皆様だけでなく、あの日以来多くの方々にご心配をおかけし、ご迷惑をおかけしてまいりました。数え切れないほどの励ましをいただきました。

その多くの関係者の皆様に直接ご挨拶することが叶わないまま、この挨拶のみで失礼いたします。

津久井やまゆり園を代表いたしまして、謹んでご挨拶させていただきます。

車を走らせて、津久井やまゆり園に近づくと、ほんの短いトンネルがあります。そのトンネルを抜けてから桂橋という名の橋を通り抜けます。

その桂橋を渡るたびに、四季折々の景色が目に飛びこんできます。

津久井やまゆり園をこよなく愛している人は誰もが、この景色を眺めながら毎日を過ごしています。

時には春爛漫な景色に出迎えてもらい、

時には若葉萌える新緑の光景に励まされて、

千木良での日々を過ごしています。

4年前のあの日。

そう、あの日もきっと同じように、夏の日差しを浴びた景色が広がっていたのでしょう。

4年がたちました。

高い空の上から見下ろせば、この4年間で過ぎても、あの日までと同じような千木良の里が眺められているのかもしれませんが。

津久井やまゆり園の利用者の皆様は、これまで経験してこなかった日々を歩んできました。きっと大空の向こうから励ましてくれている、見守ってくれている、そう思いながらこの4年間で過ごしてきました。

悲しみに暮れる日々が長く続きましたが、あの日までの楽しかった暮らしの一コマひとコマを思い出せるようになってきたのは、きっと私だけではありません。

仲間と共に草木に水をやり、花を咲かせた日々がありました。

時に病の床で過ごすこともありました。

ご家族が訪れてくれる日を心待ちにしていた方もいました。

そんな日常を思い出したりしています。

だって、あの日まで一緒に同じ空気をすって、同じご飯を食べて、一緒に笑っていたのですから。

文字だけで綴るには、私達の思いは到底伝えきれません。

津久井やまゆり園で働く私達は、この4年間、いつもあの日の悔しさや悲しさ、やりきれなさを胸に、仕事に励んできました。4年の月日が流れ世間では、涙に暮れる日々が少なくなったように思われているかもしれませんが。

その思いとは裏腹に、津久井やまゆり園で働く私達は、あの日を思うと、今も冷静ではられません。

嗚咽し、怒りに震えるのです。

あの日の前に戻りたいという決して叶わぬ願いを胸に、様々な思いを重ねてまいりました。

四季折々の景色に癒され、

あたたかい温もり溢れた日々を思い出し、

それでも尚、あの日の悲しみ、苦しみ、悔しさは今も喉元にあるのです。

そんな私達の思いは、これからも続くでしょう。

残されたご家族の皆様への哀悼の気持ちを胸に、私達の思いはこれからも続いていきます。

あの日、お守りすることができなかった申し訳ない気持ちを胸に、これからも精一杯仕事に励んでいきます。

この世に生を受けたすべての人の命を大切にする社会を作っていけるよう尽力してまいります。

残されたご家族の皆様が、ほんの少しでも落ち着いた時間を取り戻していただけることを願ってやみません。

やりたいことが沢山あった、食べたいものが沢山あった、そんなささやかな
願い叶わずお亡くなりになられたお一人おひとりを悼み、お祈り申し上げます。
4年たって、5年たって、10年たって、私達は祈り続けます。
どうか、安らかに眠りくださいませ。

津久井やまゆり園の職員一人ひとりの気持ちを込めて、ご挨拶させていただきました。

令和2年7月20日

社会福祉法人 かながわ共同会
津久井やまゆり園 入倉かおる